

宇都宮市立平石北小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

・「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は90.9%である。また、「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的割合は60.6%で、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的割合は69.7%で、いずれも宇都宮市の肯定的割合を上回っているが、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的割合は39.4%と低く、今後児童の家庭学習の取り組みを認めていくとともに家庭学習習慣については、学級懇談会等の機会を活用し、家庭との連携を図っていく。

・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の本校の肯定的回答の割合は66.7%で、市の肯定的回答の割合を9.1ポイント下回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的割合は69.7%で市の肯定的割合を7.6ポイント下回っている。授業の中で、児童の学習意欲が高まるようなテーマを設定し、目的のある話し合いの場を設定していく。その中で、相手の意見を聞くことで自らの考えが広がっていくようにしていき、話し合いのよさを実感できるようにしていく。

・「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の本校の肯定的割合は81.8%で約8割の児童が責任をもって仕事に取り組むことができている。しかし、市の平均より10.6ポイント下回っており、今後高学年として、多くの仕事をする中で達成感や充実感が味わえるように一つ一つの頑張りを認めていく。